

1. 木質バイオマス関連情報

■明星工業(株)(大阪)傘下でボイラの製造販売を手掛ける(株)よしみね(大阪)、三重県亀山市に新工場建設を決定。老朽化していた京都工場の機能を移転する。4月26日亀山市で立地協定を締結。同市白木町の工業団地「亀山・関テクノヒルズ」に約40億円を投じて10月から建設する。三重県での拠点開設は初。2024年3月の操業開始を目指す【日本経済新聞：2022/04/27】

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO60350250W2A420C2L91000/>

■福岡県田川市楠(ほしい)地区での木質バイオマス発電所の建設計画に地元住民から反対の声。事業主体は南国殖産(株)(鹿児島)100%出資会社の「田川バイオマスエネルギー(株)」(福岡)。計画では農地転用された約7,200㎡の土地に1,999kWの発電所を建設。事業費は約27億円。燃料には伐採後に残る木の根や枝等の林地残材を搬入し、100%国産材を使用。発電した電力は九州電力(株)(福岡)に売電し、廃熱は園芸ハウスに供給して農業に活用する。南国殖産は2019年2月に田川市と協定書を交わし、同年11月に地元区長らに計画を説明。2020年5月には経産省が再生可能エネルギー特措法に基づき事業を認可。2021年6~10月に造成工事を行い、その前後に住民説明会を順次開いたが、造成後に開催された地区住民が反発。予定地が洪水浸水想定区域内で周辺に学校や病院もあることから立地を不安視する声が相次ぎ、建設地の楠地区の住民有志も加わって建設反対の署名が5月1日時点で計1,900人に【朝日新聞：2022/05/20、南国殖産(株)】

<https://www.asahi.com/articles/ASQ5M6VYMQ3RTGPB001.html>

<https://www.nangoku-housing.jp/biomass.html>

■(株)中山組(北海道)、バイオマス燃料用PKSの日本向け輸出事業を拡大へ。同社子会社の環境エンジニアリング(株)(同)および工場設備コンサルタントの(株)KANZAI(同)の共同出資により、2020年4月に「DAYA SYNERGY BORNEO (DSB)」の日本法人を設立。同年5月にマレーシアのコタキナバル市で

同名の現地法人を設立し、PKS輸出用の貯蔵施設を整備するなど既に同国での事業を進めてきたが、インドネシアにも拠点を開設し、出荷量を従来計画の3倍以上に増やす。昨年秋、大規模なパームヤシ農園が集積するインドネシア・カリマンタン島東部にPKSを輸出する現地法人を設立し、貯蔵施設3カ所を整備。今年6月から5万~8万t/年の出荷を計画。当面は同国内向けの燃料として出荷し、将来的な日本への輸出に備える。調達先を増やすことで、国内のバイオマス発電事業の拡大や原油高騰などに伴う需要増に対応する考え【北海道新聞：2022/05/24、(株)中山組】

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/684361>

<http://www.nakayamagumi.co.jp/%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%83%9E%E3%82%B9%E7%87%83%E6%96%99%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E3%81%B8%E3%81%AE%E5%8F%96%E3%82%8A%E7%B5%84%E3%81%BF/>

■(株)トーヨーホールディングス(東京)子会社の(株)トーヨーエネルギーファーム(福島)が、2022年中に国内で運営する太陽光発電所を売却へ。対象資産は国内の稼働済み太陽光発電所20サイトで、総発電量約39MW。全サイトFIT認定取得済のもので、平均残存期間は約14年。6月10日23時59分迄を応募期限として札方式で買い手を募り、120億~150億円程度での売却を目指す。売却で得た資金は高い売電価格を見込めるバイオマス発電所の新設などにあてる。10月までに2度の入札を経て売却先を決定する予定【日本経済新聞、(株)トーヨーホールディングス：2022/05/24】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC182P60Y2A510C200000/>

<https://toyo->

<https://toyo-group.com/topics/%e5%ad%90%e4%bc%9a%e7%a4%be%e3%81%8c%e6%89%80%e6%9c%89%e3%81%99%e3%82%8b%e5%a4%aa%e9%99%bd%e5%85%89%e7%99%ba%e9%9b%bb%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e3%81%ae%e5%a3%b2%e5%8d%b4%e5%85%88%e5%8b%9f%e9%9b%86%e3%81%ab/>

■(株)桑木(石川)、5月24日より熊による被害木から生まれた「くまはぎの薪TM」の先行販売を応援購入サービス Makuake にて開始。「くまはぎ」とは、熊が水分を舐めるために樹皮を剥がす行為のこと。剥がされた木は腐ったり枯れたりし、木材としての価値が大幅に低下するため本来ならば廃材となるこの被害木をキャンプ用薪として活用し、売り上げの一部を里山整備に使用する。プロジェクトを通してくまはぎ被害の減少と森の関係人口の増加を目指す。くまはぎの薪TMは石川県白山市白峰地区の山で育ったスギを使用。約 3kg/箱で一般販売予定価格は 3,000 円(税込)。Makuake での応援購入期間は 7 月 15 日までで、8 月から随時発送するとのこと【PR TIMES、Makuake : 2022/05/24】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000100625.html>

<https://www.makuake.com/project/kumahagi/>

■福島県伊達市のやながわ工業団地でバイオマス発電所(出力 13,500kW)を建設する(株)ログ(群馬)が環境影響などについて説明(5月23日)。2020年7月9日の最初の説明会ではバイオマス発電だけの計画説明をしていたが、参加者の質問で建築廃材と廃プラスチックを燃料にするため、産業廃棄物中間処理場も建設・稼働することが判明。事業者がそれまで隠ぺいしてきた態度に不信感が高まったうえ、2021年3月18日の二回目の説明会ではさらに不安を煽るような一方的な説明に終わり、住民の反対の声が挙がるように。同年3月24日には住民および関係団体が「市民のくらしと命を守る会」を設立し、計画の白紙撤回を求める署名活動を実施。伊達市議会が経産省等に同年6月22日付で提出している。今回の事業者の説明は非公開だが排水や騒音、大気汚染などは規制する法令を順守していて問題はないと説明したとのこと。発電所は6月中旬から本格的な工事が始まり、2年後の2024年5月運開予定【NHK NEWS WEB : 2022/05/24、伊達市議会 : 2021/06/22、エコノハサーチ : 2020/09/10】

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/fukushima/20220524/6050018596.html>

<https://www.city.fukushima-date.lg.jp/uploaded/attachment/51640.pdf>

<https://search.econoha.jp/news/16757/>

■横河電機(株)(東京)、廃棄物・バイオマス発電所向け効率改善技術をもつデンマークの Dublix Technology ApS (以下、デュブリックス)を買収したと発表。デュブリックスは現在ヨーロッパを中心に北米、アジアなどで事業を展開。廃棄物・バイオマス発電プラント向けに設計、運用、保守およびカスタマイズされたソリューションを提供することにより稼働率や発電効率を改善するとともに環境への負荷を低減している。デュブリックスの燃焼制御ソフトウェアである FuzEventTMは、過去の運転データと熟練した運転員のオペレーションの解析結果に基づき、24時間365日、廃棄物・バイオマス発電プラントの最適制御を実現。また、不完全燃焼に起因する窒素酸化物(NOx)などの有害な排ガスを削減する。また同社のボイラ内部を洗浄する効果的なボイラクリーナーである DD-JetTMはプラントを稼働させながらボイラ内部の届きにくい場所にも対応した回転ノズルからの水噴霧式洗浄により効果的に汚れを落とし、ボイラの燃焼効率改善、発電量増加、腐食低減、ライフサイクル長期化、シャットダウン頻度の低減に貢献する。今後は横河電機のグローバルネットワークを通じて、新設および既存の廃棄物・バイオマス発電プラント向けの発電効率改善ソリューションを提供していくとしている【横河電機(株) : 2022/05/25】

<https://www.yokogawa.co.jp/news/press-releases/2022/2022-05-25-ja/>

■民間の脱炭素事業に資金支援する官民ファンド「(株)脱炭素化支援機構」の創設を盛り込んだ「地球温暖化対策推進法改正法案」が、5月25日の参院本会議で可決し、成立。同機構は環境配慮や地域への貢献、収益性など国が定める基準に則って支援対象の事業を決める。太陽光や風力など再生可能エネルギーの導入等が候補。2050年の脱炭素社会実現につなげるのが狙い。財政投融资 200 億円を活用するほか、民間にも資金を出してもらい、総事業費 1 千億円規模を目指す。環境省は 10 月中の設立を目指しており、6 月 1 日付で「(株)脱炭素化支援機構設立準備室」を設置。規定類の整備、支援基準の策定及び機構設立に向けた広報・PR 活動などを行っていくとしている【共同通信 : 2022/05/25、環境省 : 2022/05/27】

<https://nordot.app/902131257882034176?c=113147194022725109>

<https://www.env.go.jp/press/111126.html>

■(株)東京エネシス(東京)、再生可能エネルギーを主力事業として強化へ。現在は火力発電所の建設や保守を主力事業としているが、世界的な潮流となっている脱炭素化を受け、現在は売り上げの6%ほどの再エネ関連事業を、2030年度には30%超とすることを目指す。再エネ事業の核と位置づけるのが鳥取県境港市で同社が初めて設計から建設、発電までを全て手掛ける「境港バイオマス発電所」。インドネシアやマレーシアから輸入するPKSを燃料とし、出力は2万4,300kW。投資額は総額約120億円、今秋運転開始を目指している。境港のほかにも国内4カ所のバイオマス発電所で運転・保守業務を受注しているが、境港の事業を通じて技術や燃料調達を含めた運営ノウハウをさらに蓄積。バイオマス発電事業の運転・保守だけでなく、設計や建設、燃料調達といった業務の受注を狙う。再エネの推進部署として、7月1日付で「グリーンエネルギー事業本部」を設置。発足時は50人程だが、経験者採用や新卒者の育成を進め、人員を2倍以上に増やす方針【産経新聞:2022/05/26】
<https://www.sankei.com/article/20220526-QQZTQJGJDFJLFB5MJZBDF5Q5A/>

■コスモエネルギーホールディングス(株)(東京)グループ会社のコスモ石油ルブリカンツ(株)(埼玉)が、植物由来のベースオイル含有率80%以上のディーゼルエンジンオイル『コスモディーゼル“カーボニュート”10W-30』の開発に成功。「バイオマスマーク(バイオマス度80%)」認定を取得。ディーゼルエンジンオイルがバイオマスマーク認定を取得するのは、本製品が国内初。石油資源の節約と、廃棄時に発生する温室効果ガスの削減を行うべく同製品を開発。既に自社工場での生産開始に向け試製を完了しており、2022年8月より販売開始予定。エンジン試験においては市販の最高級合成系ディーゼルエンジンオイルと同等レベルの性能を有する結果を得ており、大手ユーザーと共同での実車試験を検討中【PR TIMES:2022/05/26、コスモ石油ルブリカンツ(株);2022/06/15】
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000098598.html>
<https://www.cosmo-lube.co.jp/info/?itemid=26&dispmid=471>

■双日(株)(東京)、宮崎、山口、岡山の3県にて地方創生のための早生樹事業を開始したと発表(5月26日)。2020年度の「発想×双日Hassojitz(ハッソウジツ)」プロジェクトにて発案された「早生樹事業」を実現するべく、東大発のベンチャー

企業(株)本郷植林研究所(東京)と設立した「日モリノミライ」を通じて、宮崎県川南町の耕作放棄地(0.2ha)、山口県宇部市の農地(0.1ha)、岡山県久米郡美咲町のゴルフ場跡地(0.3ha)で早生樹ハコヤナギを植林する。成長が早く植えてから伐採できるまでに5年程しかかからないハコヤナギを安定的にバイオマス発電用に供給できる国産燃料にしていく。双日は5月11日に宮崎県児湯郡川南町と、バイオマスエネルギーの活用を含む農業振興を通じた地域創生に繋がる取組みを連携・協力して実施するとして協定を締結。早生樹ハコヤナギの植林を将来的に1万ha規模に拡大したいと考えている同社が栽培適地である温暖な地域の自治体や地域に声掛けするなどし、3県での植林が実現。今後他地域へ拡大することも検討中。今月末には北海道の十勝にて試験植林を実施する予定【双日(株):2022/05/26、2021/09/30、日本経済新聞:2022/05/27】
<https://www.sojitz.com/jp/news/2022/05/topics-20220526.php>
<https://www.sojitz.com/jp/news/2021/09/20210930.php>
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC265VS0W2A520C2000000/>

■香川県高松市、市内で廃棄される讃岐うどんを燃料にしたバイオマス発電の実証実験を6月から開始。2016年2月から下水汚泥の発酵処理で発生するメタンなどのガスを燃料に東部下水処理場が発電事業を行っており、約250万kWh/年を四国電力(株)(香川)に販売し約1億円の収入を得ているが、夏場など下水道内が高温となる時期には汚泥処理以前に発酵が進み、ガスの発生量が低下。発電量が通常の半分程度にまで落ち込むという課題があるが、その低下分を補うにはタンクへの有機物の追加投入が有効であるため、市下水道施設課が香川県内で大量に出る廃棄うどんの利用に着目。国交省の支援も受け、同市の製麺会社「さぬき麺業(株)」と提携。6月3日に協定を正式に締結し、実験を開始。同社からは毎月製麺時に出るうどんの切れ端400~600kgが試料として提供される予定で、市は1年かけてタンクへの投入量とガスの増加量を調査。バイオマス発電の効率稼働に向けた有効性と安定的な運用の在り方などを検証していく。実験の期間は1年間【山陽新聞:2022/05/29】
<https://www.sanyonews.jp/article/1267254>

■5月26日(木)～27日(金)にドイツ・ベルリンでG7気候・エネルギー・環境大臣会合開催。参加したのはG7の日本、ドイツ、イタリア、カナダ、フランス、米国、英国、EUおよびゲスト国のインドネシア(G20議長)の気候、エネルギー、環境担当大臣、副大臣等。ドイツが議長を務めて議論を行い、コミュニケ(共同声明)を取りまとめ。詳細は下記サイト参照【環境省：2022/05/30】

<https://www.env.go.jp/press/111114.html>

■木質系廃材のリサイクル事業を手掛けるフルハシ EPO (株) (愛知)、5月31日に岐阜県大垣市で木質チップを生産する「岐阜第二工場(大垣)」を稼働。岐阜県内では多治見市の工場に続き2か所目。生産量は30,000t/年。投資額は約4億4千万円【中部経済新聞、フルハシ EPO (株)：2022/05/31】

<https://www.chukei->

[news.co.jp/news/2022/05/31/OK0002205310101_03/](https://www.chukei-news.co.jp/news/2022/05/31/OK0002205310101_03/)

https://www.fuluhashi.co.jp/ir/upload_file/tdnrelease/9221_20220531565078_P01_.pdf

■FAO(国連食糧農業機関)と大韓民国、5月2日～6日まで「第15回世界林業会議」をソウルで開催。各国政府、国際機関、大学・研究機関、産業界・企業、NGO関係者等141か国から約1万5,000名が参加。世界林業会議は6年に1回、世界の森林・林業関係者が一堂に会し、幅広いテーマについて議論する、森林・林業分野では世界最大規模の国際会議。今回の会議は「森林と共にグリーンで健康的で強靱な未来を築く」が全体テーマ。全体会議の他、「気候変動の緩和・適応や生物多様性保全に向けた自然に基づく解決策(Nature-based solutions)」、「成長と持続可能性に向けたグリーンな道筋」といった6つのサブテーマごとの30の分科会対話、10の特別イベント、2つの閣僚級フォーラム、116のサイドイベント等が開催されたほか、世界中から1,000本を超える論文やポスター等が発表された。本会議に合わせてFAOは「世界森林白書2022(SOF02022)」及び「世界森林資源評価2020リモートセンシング調査報告書」を公表。会議の成果としては「ソウル森林宣言」等の文書が採択・公表された。次回2028年開催の第16回世界林業会議は、トルコ共和国がホスト国となる意向を表明【J-FIC ニュース：2022/06/01、林野庁：2022/05/16】

<https://www.j->

[fic.com/%e3%82%bd%e3%82%a6%e3%83%ab%e3%81%a7%e7%ac%](https://www.j-fic.com/%e3%82%bd%e3%82%a6%e3%83%ab%e3%81%a7%e7%ac%ac15%e5%9b%9e%e4%b8%96%e7%95%8c%e6%9e%97%e6%a5%ad%e4%bc%9a%e8%ad%b0%e3%80%81%e3%80%8c%e6%a3%ae%e6%9e%97%e5%ae%a3%e8%a8%80%e3%80%8d%e6%8e%a1%e6%8a%9e/)

[ac15%e5%9b%9e%e4%b8%96%e7%95%8c%e6%9e%97%e6%a5%ad%e4%bc%9a%e8%ad%b0%e3%80%81%e3%80%8c%e6%a3%ae%e6%9e%97%e5%ae%a3%e8%a8%80%e3%80%8d%e6%8e%a1%e6%8a%9e](https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kaigai/220516.html)

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kaigai/220516.html>

■(株)カインズ(本社・埼玉)、使用する電気を100%再生可能エネルギーで調達する“CO₂フリー店舗”「カインズ 壬生店」(栃木)を6月18日にグランドオープン。カインズは地元森林の間伐材など国産材由来の木質チップのみを燃料として、壬生町内でバイオマス発電所を運営する(株)エフオン(東京)とバイオマス電力の需給契約を締結。さらに太陽光発電システム150kwを導入し、店舗の年間電気使用量の約22%を賄うようにした上、省エネ性能を評価する第三者認証制度「建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)」で最高評価の5つ星を獲得。これにより、カインズとしては初の新規オープン時からCO₂フリーの店舗を実現【PR TIMES：2022/06/01】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000224.000008255.html>

■(株)奥村組(大阪)、連結子会社の平田バイオエナジー合同会社(福島)が福島県石川郡平田村に建設を進めているバイオマス発電設備2機のうち、完成した「福島平田村バイオマスパワー1号」の営業運転を5月29日より開始したと発表。平田バイオエナジー合同会社は奥村組、四国電力(株)(香川)および岩堀建設工業(株)(埼玉)の共同出資により設立。福島県石川郡平田村に発電規模1,990kWの発電設備2機を建設し、国産材由来の木質チップを燃料として発電事業を行うもので、燃料となる木質チップは全て福島県および近隣県の林地で発生する間伐材等を使う計画。発電設備は(株)タクマ(兵庫)製を採用。EPC(設計・調達・施工)サービスは岩堀建設工業が担当。O&M(運営・保守)は外部委託。年間発電電力量は約1,450万kWh(一般家庭約4,650世帯分に相当)で、発電した電力はFITに基づき東北電力ネットワーク(株)(宮城)に売電する。福島平田村バイオマスパワー2号は引き続き建設工事を進め、2023年4月営業運転開始を目指す【(株)奥村組、四国電力(株)、メガソーラービジネス：2022/06/03】

<https://www.okumuragumi.co.jp/newsrelease/2022/content-1.html>

https://www.yonden.co.jp/notice/_icsFiles/afieldfile/2022/06/03/20220603_1.pdf

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/02592/?ST=msb>

■岩手県遠野市の建設業（株）テラが、木質バイオマス発電所建設へ。今月、事業を担う特定目的会社「グリーンパワーとおの（仮）」を設立。市内の社有地 92.68 アールにボイラ棟、タービン棟、管理棟が一体の発電所（延べ床面積 1,200 ㎡）を建設。総事業費は約 20 億円。燃料には市内の林地残材を活用。発電所やチップ製造、原料調達など事業全体で地元を中心に 20 人程の雇用を見込む。発電所は本年度中の着工、2025 年 6 月稼働予定【岩手日報：2022/06/04】

<https://www.iwate-np.co.jp/article/2022/6/4/117362>

■中堅化学メーカーの（株）トクヤマ（山口）、2023 年の年初をめぐり過去最大量（200t）の竹をバイオマス発電の燃料として混焼発電。竹の活用は脱炭素社会の実現に向けた具体策や、「放置竹林」問題の解決策として国も期待。一方で燃焼時には炉を傷めるガスが発生するなど、技術的な課題も【日本経済新聞：2022/06/06】

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ061427120T00C22A6X13000/>

■環境省、6 月 7 日に閣議決定された「令和 4 年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」を公表。令和 4 年版のテーマは「グリーン社会の実現に向けて変える私たちの地域とライフスタイル～私たちの変革から起こす脱炭素ドミノ～」。気候変動や資源の大量消費、生物多様性の損失等の危機的状況を世界全体で乗り越えるための国際動向の紹介や、「脱炭素」と並行して「循環経済」、「分散・自然共生」という多角的かつ、関連しているアプローチからグリーン社会の実現を目指すこと等について書かれている【環境省：2022/06/07】

<http://www.env.go.jp/press/111155.html>

■環境省の務台俊介副大臣が 6 月 8 日、千葉県千葉市の木材リサイクル施設「（株）グリーンアース千葉キャピタルバイオマスセンター」を視察。同センターでは事業の一つとして、伐採や剪定により発生する枝葉・幹・根を破碎、チップ化しており、製造されたチップは発電やバイオマスボイラ用の資源等に活

用されている。千葉市とは、災害時に市内で発生した倒木等の持込受け入れ、運搬、保管及び処理等を行う「災害時における倒木等の処理に関する協定」を 2021 年 12 月 20 日に締結している【千葉日報：2022/06/09、千葉市：2022/06/07】

<https://www.chibanippo.co.jp/news/local/944335>

<https://www.city.chiba.jp/somu/shichokoshitsu/hisho/hodo/documents/220607-1.pdf>

■宮城県登米市議会、再生可能エネルギー発電事業を予定する事業者に対し FIT の申請前に住民説明会や市への届け出などを義務化する条例を可決（6 月 8 日）。市長への届け出は経産省に FIT の事業申請をする 90 日前には出した上で、合意を得ることを義務付け。事業内容を変更する場合も同様。住民説明会では分かりやすい表現で説明し、住民と適切な意思疎通を図ること等も定められた。条例の付則には、FIT の事業認定を受けている事業者でも工事に着手していない場合、市長への届け出や住民説明会の開催を求めることを明記。これにより、同市東和町で建設予定であり、建設反対の声が上がっているバイオガス発電所計画は未着工のため、適用対象に【河北新報：2022/06/09】

<https://kahoku.news/articles/20220608khn000038.html>

■中国木材（株）（広島）、秋田県能代市に建設予定の能代工場の起工式を 6 月 8 日に開催。製材工場は造成工事を開始しており、2024 年 1 月の試運転に向けて準備中。今後は木材乾燥のための天然乾燥場や集成材工場、製材で出る樹皮やおが粉を燃料に利用するバイオマス発電設備も建設予定。国産材を余すことなく有効活用できる仕組みを整えていく【中国木材（株）：2022/06/10】

<http://www.chugokumokuzai.co.jp/topics/topics52.html>

■（公社）国土緑化推進機構（東京）、「森林と気候変動」を発刊。カーボンニュートラルと森林や暮らしの中の木材利用との関りについて分かりやすくまとめた電子媒体のパフレット。学校における副教材としての活用を念頭に、小学校中学年以上向けの「キッズ版」と中高生以上向けの「大人版」の 2 種類を用意。3 月に発刊した「森林と気候変動 カーボンニュートラルと森林・木材利用による気候変動の緩和に向けて」（基礎資料集）と併せて、3 部セットとなっている。下記サイトより閲覧可【（公社）国土緑化推進機構：2022/06/13】

https://www.green.or.jp/news/kikou_k_o/

■韓国化学大手の LG 化学、バイオマス発電所の新設に向け、GS グループ（韓国）で韓国初の民間発電会社の GS EPS と提携すると発表（6 月 13 日）。両社は合弁法人を設立し、新会社を通じて 2025 年までに LG 化学の麗水工場（全羅南道麗水市）にバイオマス発電所を建設。家庭や生産現場で発生する木材廃棄物を燃料として使用し、環境配慮型エネルギーを生産する。完成すれば、LG 化学は石油化学工場の稼働に必要なエネルギーをバイオマスに代替でき、40 万 t/年規模の炭素削減につながるという。このほか新会社は再生可能エネルギーの電力売買契約（PPA）に向けた制度の整備や、バイオマスエネルギー分野での新事業発掘にも乗り出す計画【NNA ASIA：2022/06/15】
<https://www.nna.jp/news/show/2349796>

■米国石油大手シェブロン、6 月 13 日に米国バイオ燃料大手リニューアブル・エナジー（以下、「REG」）の株主承認が完了し、買収したと発表。併せて、REG のシンシア・ワーナー前社長兼最高経営責任者（CEO）が同日付でシェブロン取締役役に就任。REG はバイオディーゼルをはじめとする先進バイオ燃料の製造会社。米国と欧州で 11 のバイオ・リファイナリー（精製所）を運営している。シェブロンは今年 2 月 28 日付で REG を 31 億 5,000 万ドルで買収することで最終合意していた。今回の買収により、2030 年までにバイオ燃料の生産能力を日量 10 万バレルに拡大するというシェブロン目標達成の加速が期待される【JETRO：2022/06/15】
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/06/1ec13a3fb0fffb29.html>

■北海道室蘭市の木材加工メーカー（株）大協の室蘭工場、木質廃材のおがくずを用いて開発した「ブリケット」を同市内のアウトドア専門店「66BASE（ロクロク・ベース）」で販売。ブリケットは木材加工で出るおがくずを大協の工場を高圧縮して円筒状に成形する「人工まき」。木質ペレットよりも太く、直径は 10 cm。ロクロク・ベースの店名にちなみ、1 箱（12kg）を 660 円の低価格で提供【北海道新聞：2022/06/15】
<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/693896>

■東京大学（東京）や畜産コンサルタントのバイオマスリサーチ（株）（北海道）など、北海道士幌町の農場でバイオガス発電で生じた消化液を濃縮し、肥料として自動散布車両で農地にまく実証試験実施へ。散布作業の負担軽減や化学肥料の削減が狙

い。消化液は家畜のふん尿を発酵させて発電の燃料となるメタンガスを取り出した後に残る液体で、液肥として使われている。ただ消化液の 95%が水分のため、散布作業は天候に左右されやすく、時間もかかり、傾斜地だと均一にまけないといった課題も。1 月には宮崎県で試験を行い、扱いやすい濃度を探った。士幌町でも適度な濃縮度合いや自動散布の技術を引き続き検証する【北海道新聞：2022/06/17】

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/694937/>

■インドネシアの国営電力 PLN、リアウ州インドラギリヒルル県のテンピラハン石炭蒸気発電所（容量 7MW2 基）で、PKS の専焼試験に成功したと発表（6 月 16 日）。発電所の混焼でバイオマス燃料に 100%転換したのは、インドネシアでは初【NNA ASIA：2022/06/20】

<https://www.nna.jp/news/show/2351840>

■（株）タクマ（兵庫）、中国木材（株）（広島）より 10MW 級バイオマス発電プラントの建設工事を受注。同事業では、同社の関連会社である長良川木材事業組合（岐阜）の隣接地（岐阜県郡上市）にバイオマス発電プラントを建設し、同組合の製材過程で発生する端材や周辺地域の間伐材を燃料として 9,990kW の発電を行うもの。発電した電気は FIT を利用し売電する計画。タクマが同社向けバイオマスプラントを受注したのは本件で 12 基目。完成予定は 2025 年 3 月末【（株）タクマ：2022/06/21】

<https://www.takuma.co.jp/news/2022/20220621.html>

■西松建設（株）（東京）、事業運営子会社として「山陽小野田グリーンエネルギー（株）」（山口）を設立（4 月 15 日）し、山口県山陽小野田市で木質バイオマス発電事業に進出すると発表。現在出資比率は西松建設 100%だが、今後複数社が出資予定。山陽小野田グリーンエネルギーは同市の小野田・楠企業団地に発電出力 1,990kW の木質バイオマス発電所の建設・運営を行う予定。燃料となる木質チップは、燦キャピタルマネージメント（株）（大阪）の関連会社である山陽小野田バイオマス燃料供給（株）（山口）を介して主に山口県内の素材生産者によって集材される間伐材や林地残材等の未利用材を利用。発電所の建設は（株）タクマ（兵庫）が受注。発電した電力は FIT を通じて中国電力（株）（広島）に売電する。2023 年 6 月建設開始、完成

は 2024 年 6 月末、営業運転開始は 2024 年夏頃の予定【西松建設 (株) : 2022/06/21、(株) タクマ : 2022/06/23】

<https://www.nishimatsu.co.jp/news/news.php?no=NTMx&icon=44GK55+l44KJ44Gb>

<https://www.takuma.co.jp/news/2022/20220623.html>

■燦キャピタルマネージメント (株) (大阪)、山陽小野田バイオマス燃料供給 (株) (山口) の株式を取得し、子会社化へ。発行済株式 11,600 株のうち、日本小型バイオマスホールディングス (株) (東京) が保有する 5,900 株 (50.86%) を取得。取得金額の総額は、1,038,400 円 (176 円/株)。取得予定日は 6 月 30 日【M&A マガジン : 2022/06/21】

https://www.nihon-ma.co.jp/news/20220621_2134-5/

2. ペレット関連情報

■商船三井ドライバルク (株) (東京)、米国の Enviva Inc.社と持続可能な木質ペレットの海上輸送に於ける温室効果ガス排出削減を目的とした、環境負荷の少ないばら積み船(以下「EFBC」)の導入に関する追加覚書を締結。2016 年以降、大西洋水域での木質ペレットの輸送契約を通じ、海上輸送での安全性や効率化の向上に関し協議を重ねてきた両社は、2021 年 3 月に EFBC の実現を目的としたパートナーシップを締結。商船三井が手掛ける「ウインドチャレンジャー」を含めた各種新技術の導入を検討。ウインドチャレンジャーは伸縮可能な帆(硬翼帆)によって風力エネルギーを推進力に変換する装置で、船舶に搭載することにより航行燃料の削減が可能となり、環境負荷の低減と経済性の向上に寄与する。2024 年に (株) 大島造船所(長崎)にて竣工予定の EFBC(載貨重量 62,900t)にはこのウインドチャレンジャーに加え、英国の Anemol Marine Technologies Ltd.が開発する同じく風力を活用した推進補助装置「Rotor Sail (ローターセイル)」の併用を検討しており、平均約 20%の GHG 削減を見込む。今回の追加覚書は両社が共同研究の段階を完了し、実際に EFBC を導入する事で合意したもの【商船三井ドライバルク (株) : 2022/05/20】

<https://www.moldrybulk.co.jp/press/2211/>

■宮崎県日向市に計画されている「日向バイオマス発電所」、4 月 28 日に起工式を開催。同事業は (株) 東京エネシス (東京)、伊藤忠商事 (株) (東京)、大阪ガス (株) (大阪)、東京センテ

■日本中央競馬会 (東京、以下「JRA」)、6 月 5 日に「安田記念 [G I]」開催の東京競馬場において、「クリーンエネルギー競馬」を実施。JRA では初の試み。自然エネルギー (バイオマス由来) によって発電された電力を使用し、当日の競馬開催の必要電力である、110,190kWh を賄った。今回の「クリーンエネルギー競馬」は、自然エネルギーで発電された電力の環境価値を「グリーン電力証書」という形で受け取る (購入することにより、太陽光・風力・バイオマス・水力などの電力を購入したとみなすシステム) を利用。購入代金も、自然エネルギー推進のために役立てられる。今回の取組みで、約 54t の CO₂ を削減【JRA : 2022/6 月】

<https://jra.jp/company/social/environment/cleanenergy/>

ユリー (株) (東京) の 4 社共同出資で事業運営会社「日向バイオマス発電 (株)」を設立し、宮崎県日向市の細島工業団地内にバイオマス発電所建設準備を進めてきたもの。輸入木質ペレット、国産木質チップ等を燃料とし、発電容量は 50MW。東京エネシスが運転・保守、大阪ガス 100%子会社の Daigas ガスアンドパワーソリューション (株) (大阪) および東京エネシスがオーナーエンジニアリング業務を担当。また伊藤忠商事が木質ペレット、大阪ガスグループの (株) グリーンパワーフュエル (大阪) が国産木質チップの長期供給を行う。2024 年 11 月運転を目指す【(株) 東京エネシス : 2022/05/20】

<https://www.qtes.co.jp/ir/document/news/1013/>

■林野庁、「令和 3 年度森林・林業白書」を公表。近年木質バイオマス発電所の増加等により、エネルギーとして利用される木質バイオマスの量が年々増加している中、木質ペレットについても国内製造が 11 万 t、輸入が 129 万 t と、合計 140 万 t (前年比 42%増) に。農水省が実施した「令和 2 年木質バイオマスエネルギー利用動向調査」を基に「事業所が所有する利用機器別木質バイオマス利用量の割合」についてまとめられているが、それによると、この輸入ペレットの 129 万 t は発電機のみを所有する事業所に 100%使用されている。エネルギー変換効率が発電よりも高い熱利用や熱電併給利用の基盤となる木質バイオマスボイラの稼働数は、2020 年時点で全国で 1,941 基 (うち、ペレットボイラは 904 基、木くず焚きボイラは 774 基、薪

ボイラは142基)となっており、総稼働数は2014年と比較してもほぼ横ばい。木質バイオマスの熱利用拡大に向けて、課題等の整理や必要な施策検討の他、集落や市町村といった地域の関係者の連携の下安定供給を行い、熱利用や熱電供給に地域内で取り組む「地域内エコシステム」の取組を推進することが重要、としている【林野庁：2022/05/31】

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/r3hakusyo/index.html>

■田原バイオマスパワー合同会社(神奈川県)が6月1日、田原バイオマス発電所の建設工事に着手したと発表。同発電所は愛知県田原市の臨海工業地域に建設。ベトナム産および米国産木質ペレットが燃料。EPC(設計・調達・施工)サービスはJFEエンジニアリング(株)(東京)が担当し、バルメット社(フィンランド)製ボイラを採用。発電出力は国内最大級の112,000kW、想定年間発電電力量は約7.7億kWh(一般家庭約25万世帯分に相当)。発電した電力はFITに基づき中部電力パワーグリッド(株)(愛知)に売電する。田原バイオマスパワー合同会社は2020年12月にJFEエンジニアリングが設立し、2021年10月に中部電力(株)(愛知)、東邦ガス(株)(愛知)および東京センチュリー(株)(東京)が出資することで合意。出資比率はJFEエンジニアリングと中部電力が各40%、東邦ガスと東京センチュリーが各10%。(株)みずほ銀行(東京)と(株)日本政策投資銀行(東京)をアレンジャーとするプロジェクトファイナンスによる融資契約を締結している。2025年9月運転開始予定【JFEエンジニアリング(株)：2022/06/01、2021/10/27、メガソーラービジネス：2021/10/30】

<https://www.jfe-eng.co.jp/news/2022/20220601.html>

<https://www.jfe-eng.co.jp/news/2021/20211027.html>

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/02110/?ST=msb>

■石油資源開発(株)(東京、以下「JAPEX」)らが出資する大洲バイオマス発電(株)(以下「OBP」)が、愛媛県大洲市に建設予定の「大洲バイオマス発電所」の起工式を実施(6月5日)。OBPは前田建設工業(株)(東京)が約54%、JAPEXが約35%、四電ビジネス(株)(香川)が約8%、新光電装(株)(香川)が約3%出資してバイオマス発電事業を推進。発電所は燃料に輸入木質ペレット(約20万t/年)を100%使用し、出力は約5万kW。年間約3.5億kWhの発電を見込んでおり、発電す

る電気の全量をFITを通じて四国電力送配電(株)(香川)へ売電する。2024年8月営業運転開始予定【石油資源開発(株)：2022/06/06、前田建設工業(株)：2022/03/24】

https://www.japex.co.jp/news/uploads/pdf/JAPEX20220606Ozu_Groundbreaking_j.pdf

https://www.maeda.co.jp/news/blog_assets/attachments/1911/20220324.pdf

■(一社)日本木質ペレット協会(東京)、会員企業及び協会の一層の認知活動となることを目的に、会員企業のPRおよびペレットのPRを目的とした事例集を作成。A4、両面カラー、全16ページ。燃料用優良木質ペレット認証制度の案内や認証の流れなども載っている。下記サイトより閲覧可。必要であれば送付も可能とのこと【(一社)日本木質ペレット協会：2022/06/08】

<https://w-pellet.org/2022/06/08/2716/>

■木質ペレットのパン窯で焼くベーカリー「ピケマルシェ365日」が神奈川県横須賀市久里浜に5月25日オープン。ピケマルシェ365日は「(一社)トライパートナーよこすか」(神奈川県)が運営している就労継続支援B型事業所。主に重度の知的障がい者の保護者が中心となり設立し、重度の障がいがあっても「社会人として当たり前前に社会に出て自立して暮らす」という想いを実現するため、自分たちで事業を運営している。ベーカリーのパンには横須賀小麦、卵、野菜などを使用。様々な種類のパンを全国の仲間がつくった木質ペレットを燃料とするパン窯で焼いている【CREATORS：2022/06/09、PIQUE MARCHÉ 365】

<https://creators.yahoo.co.jp/taka/0100249443>

<https://piquemarche.com/index.html>

■伊藤忠エネクス(株)(東京)、連結子会社の「防府エネルギーサービス(株)」(山口、以下「HES」)が運営する石炭火力発電所において、今秋木質バイオマス混焼試験を実施すると発表。試験名称は「HES木質バイオマス混焼試験」。対象設備はHES5号ボイラで、ブラックペレットを使用する。現状の設備において混焼量を段階的に(2.5%~10%)変動させて稼働状況の確認と各種データ採取を行い、CO₂排出量削減のための本格運用に向けた検討を行っていく。2022年10月実施予定【伊藤忠エネクス(株)：2022/06/09】

<https://www.itcenex.com/ja/news/2022/20220609.html>

■木質バイオマス発電では山陰両県で最大規模となる「米子バイオマス発電所」、6月17日に竣工式。三光（株）（鳥取）、シエネンジー開発（株）（群馬）、東急不動産（株）（東京）、三菱HCキャピタル（株）（東京）、中部電力（株）（愛知）の5社が出資した「米子バイオマス発電合同会社」が鳥取県米子市の和田浜工業団地の敷地6haを購入して建設。既に今年4月2日より商業運転を開始している。発電出力は約54,500kW、燃料に北米産木質ペレットや東南アジア産PKSを使い、年間の発電量は一般家庭約12万5,000世帯分にあたる約3億9,000万kWh。約100億円/年の電力販売を目指している【Yahoo! Japan ニュース：2022/06/17、米子バイオマス発電合同会社】

<https://news.yahoo.co.jp/articles/6b5d5c600585b360b84158589bc14503de85e4de>

<https://www.yonago-biomass.co.jp/>

■“ウッドショック”の二の舞か、バイオマス発電燃料「木質ペレット」輸入急増で懸念。国内のバイオマス発電所で使われる木質ペレットの輸入が急増しており、2021年は前年比53.7%増の312万t。財務省貿易統計によると、2021年の輸入額は同67.9%増の617億円となり、国内産の木材を利用していたら同額が国内の各地域に支払われた計算になる。今後も出力5万kW以上の発電所の新設が続くため、輸入が増える見通し。国際情勢によってエネルギー価格が高騰して資源を海外に依存するリスクが浮き彫りとなっており、バイオマス発電も燃料を海外に頼ると価格変動の影響や現地の規制など、突如輸入できない事態になる恐れも。また長距離輸送で化石燃料を消費する輸入木質ペレットは温室効果ガス排出削減効果に疑問が持たれているため、経産省が2022年度、「2030年時点で、燃料の

輸送も含んだ排出量が火力発電よりも70%少ないバイオマス発電しか認定しない」としてFITにおける認定基準を見直し。バイオマス発電が温暖化対策に貢献するために、林業の振興も含めた国産燃料の供給網の整備が必要となっている【ニュースイッチ：2022/06/18、経産省：2022/04/14】

<https://newswitch.jp/p/32591>

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene/shinenergy/biomass_sus_wg/pdf/20220414_1.pdf

■下関バイオマスエナジー合同会社が運営する山口県下関市の下関バイオマス発電所で作業員死亡事故発生。6月20日の10時25分頃フライアッシュサイロ内の灰除去作業をしていた請負先作業員の男性（55歳）1名が、灰に埋もれて倒れているのを翌21日10時半頃に別の作業員がを見つけ、消防に通報。市内の病院に搬送されたが死亡が確認された。警察や会社によると、事故当時、男性は高さ約11mのタンクの中に入って、内側の壁についた灰を取り除く作業をしていたとのこと。発生原因の詳細は現在調査中。下関バイオマスエナジー合同会社は九電みらいエナジー（株）（福岡）、西日本プラント工業（株）（同）、九電産業（株）（同）が出資して設立。定格出力74,980kW、年間発電量約5億kWh/年（一般家庭の約14万世帯相当）、約30万t/年の木質ペレットを燃料に使う、木質バイオマス専焼としては国内最大級となる発電所で、2022年2月2日より運転を開始していた【九電みらいエナジー（株）：2022/06/20、2019/05/24、NHK NEWS WEB：2022/06/21】

<https://www.q->

[mirai.co.jp/files/optionallink/00000343_file.pdf?1655951811](https://www.q-mirai.co.jp/files/optionallink/00000343_file.pdf?1655951811)

<https://www.q-mirai.co.jp/news/archives/172>

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/yamaguchi/20220621/4060013767.html>

3. イベント情報（国内）

※本メールニュースに掲載のイベントは情報として紹介しているもので、参加を推奨するものではありません。

※新型コロナウイルスの影響により、イベント、展示会で急遽中止や延期を決定される場合があります。開催の有無については各ウェブサイト等で最新情報を確認するようにしてください。

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■国立研究開発法人森林研究・整備機構公開シンポジウム

「木質バイオマスエネルギーの小規模利用に向けて」

2022年7月6日（水）

Microsoft Teamsによるオンライン開催

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2022/20220706symposium/index.html>

■(株)グレイス エコリク運営事務局「グリーンジョブセミナー『気候変動編』」

2022年7月8日(金)

オンライン開催 (Zoom ウェビナー)

https://ecoriku.jp/greenjobsseminar/climate_change/0708.html

■気候変動イニシアチブ連続ウェビナー第3回「石炭火力発電フェーズアウトへの挑戦：日英の政策から考える」

2022年7月8日(金)

<https://japanclimate.org/news-topics/webinar-coal-phaseout/>

■(公財)日本環境教育機構「スウェーデン大使館協力 アップルヤード和美氏 特別講演『サステナブルな社会への変革をうながす世代を超えた取り組み』」

2022年7月13日(水)

東京ウィメンズプラザ ホール (東京都渋谷区)

https://www.jp-eco.org/activity/seminar/seminar_info

■新社会システム総合研究所「脱炭素に向けた再生可能エネルギー電気の供給・調達における留意点」

2022年7月19日(火)

SSK セミナールーム (東京都港区) / ライブ配信 / アーカイブ配信

<https://www.ssk21.co.jp/S0000103.php?gpage=22338>

■新社会システム総合研究所「欧州排出量取引制度 (EU ETS) を徹底的に解説」

2022年7月20日(水)

ライブ配信 / アーカイブ配信

<https://www.ssk21.co.jp/S0000103.php?gpage=22354>

◎CMT「12th Biomass Pellets Trade & Power (第12回バイオマス・ペレット会議～貿易と発電～)」

2022年7月20日(水)～21日(木)

東京マリオットホテル (東京都品川区) / オンライン

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=220504&>

■国連経済社会局 (UNDESA)、他「第3回パリ協定とSDGsのシナジー強化に関する国際会議」

2022年7月20日(水)～21日(木)

国際連合大学国際会議場 (東京) ※オンライン参加有

<https://www.env.go.jp/press/110695.html>

■NPO 法人農都会議 7月勉強会「地域主導のエネルギーサービス会社づくりの課題～エネルギー事業者が引き起こすエネルギー大転換に期待する～」

2022年7月22日(金)

オンライン開催 (Zoom など利用)

<https://blog.canpan.info/bioenergy/archive/371>

■(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会「地域主導による木質バイオマス熱利用推進のための人材育成 令和4年度公開セミナー」

2022年7月22日(金)

WEB セミナー

<https://jwba.or.jp/topics/events/topics20220620/>

■BECC JAPAN「BECC JAPAN 2022」

2022年7月27日(水)～28日(木)

27日:ハイブリッド、28日:オンライン

<https://seeb.jp/>

■日本エネルギー学会・100周年記念行事「第31回日本エネルギー学会大会」

2022年8月4日(木)～5日(金)

大田区産業プラザPIO (東京都大田区)

<https://www.jie.or.jp/publics/index/833/>

◎NPO 法人農都会議 8月勉強会「地域の脱炭素化とエネルギー自給～新たな制度、規制緩和で、地産地消のバイオマスエネルギーによる地域のレジリエンス向上を～」

2022年8月22日(月)

オンライン開催 (Zoom など利用)

<https://blog.canpan.info/bioenergy/archive/375>

◎RX Japan (株) スマートエネルギーWeek 内「バイオマス展」【秋展】

2022年8月31日(水)～9月2日(金)

幕張メッセ (千葉県千葉市)

<https://www.bm-expo.jp/ja-jp.html>

■産経新聞社「FORESTRISE 2022（第3回次世代森林産業展）」

2022年9月14日（水）～16日（金）

東京ビッグサイト西展示棟アトリウム（東京都江東区）

<http://www.forestrise.jp/2022/>

◎バイオマスエキスポ事務局「バイオマスエキスポ 2022 森林産業『バイオマスエネルギーで加速する森林からの産業革命 2.0』」

2022年9月14日（水）～16日（金）

東京ビッグサイト西展示棟アトリウム（東京都江東区）

<https://www.biomassexpo.info/expo/>

■BioJapan 組織委員会「BioJapan」

2022年10月12日（水）～14日（金）

パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

<https://jcd-expo.jp/ja/outline.html>

■（一社）林業機械化協会「2022 第45回全国育樹祭開催記念行事 森林・林業・環境機械展示実演会」

2022年11月13日（日）～11月14日（月）

RECAMP 別府志高湖及び周辺森林（公有林）（大分県別府市）

<https://www.rinkikyo.or.jp/>

◎RX Japan（株）スマートエネルギーWeek内「バイオマス展」【関西展】

2022年11月16日（水）～18日（金）

インテックス大阪（大阪府大阪市）

<https://www.bm-expo.jp/ja-jp.html>

■（一社）サステナブル経営推進機構「エコプロ 2022」

2022年12月7日（水）～9日（金）

東京ビッグサイト（東ホール）（東京都江東区）

<https://eco-pro.com/eco2022/>

■（一社）日本森林学会「第134回日本森林学会大会」

2023年3月25日（土）～27日（月）

オンライン開催（公開シンポジウムは鳥取大学で開催）

<https://www.forestry.jp/meeting/>

4. イベント情報（海外）

◎The International Biomass Congress & Expo

2022年7月5日（火）～6日（水）

ブリュッセル（ベルギー）

https://www.bioenergy-news.com/conference/biomass/biomass_index_2022.php

■The International Biogas Congress & Expo

2022年7月5日（火）～6日（水）

ブリュッセル（ベルギー）

https://www.bioenergy-news.com/conference/biogas/biogas_index_2022.php

◎The 13th Biofuels International Conference & Expo

2022年7月5日（火）～6日（水）

ブリュッセル（ベルギー）

https://biofuels-news.com/conference/biofuels/biofuels_index_2022.php

■Green Expo 2022 Global Resources Environmental & Energy Network Exhibition & Congress

2022年9月6日（火）～8日（木）

メキシコ・シティ（メキシコ）

<https://www.thegreenexpo.com.mx/en>

◎Advanced Biofuels Conference 2022

2022年9月13日（火）～15日（木）

ストックホルム（スウェーデン）/オンライン

<https://www.svebio.se/en/evenemang/advanced-biofuels-conference-2022/>

■Asean Sustainable Energy Week 2022 – Renewable Energy Asia

2022年9月14日（水）～16日（金）

バンコク（タイ）

<https://www.asew-expo.com/2022/en/index.asp>

◎Biomass PowerON 2022

2022年9月28日(水)～29日(木)

ハンブルグ(ドイツ)

<https://fortesmedia.com/biomass-poweron-2022,4,en,2,1,20.html>

■Energy Trading Week

2022年9月28日(水)～29日(木)

ロンドン(UK)

<https://energytradingweek.com/>

■XV International Bioenergy Congress

2022年10月5日(水)～6日(木)

バリャドリッド(スペイン)

<https://www.congresbioenergia.org/>

■Progress in Biomethane-Mobility

2022年10月11日(火)～13日(木)

シュウエービッシュ＝ハル(ドイツ)

<https://ibbk-biogas.com/schedule/progress-in-biomethane-mobility/>

■Argus Biofuels Europe Conference

2022年10月11日(火)～13日(木)

ロンドン(UK) / オンライン

<https://www.argusmedia.com/conferences-events-listing/biofuels>

■EIF2022-World Energy Congress and Expo

2022年10月12日(水)～14日(金)

イスタンブール(トルコ)

<http://www.energy-congress.com/>

■All Energy Australia 2022

2022年10月26日(水)～27日(木)

メルボルン(オーストラリア)

<https://www.all-energy.com.au/en-gb.html>

■The 22nd Wood Energy Congress

2022年11月8日(火)～9日(水)

ヴェルツブルク(ドイツ)

<https://bioenergyeurope.org/events/11-events/329-wood-energy-congress.html>

■National Carbon Capture Conference & Expo

2022年11月8日(火)～9日(水)

アイオワ州デモイン(USA)

<https://2022-nccc.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

■ECOMONDO 2022

2022年11月8日(火)～11日(金)

リミニ(イタリア)

<https://en.ecomondo.com/>

■European Biomass to Power Summit

2022年11月9日(水)～10日(木)

ロンドン(UK)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/european-biomass-to-power/>

◎EnergyDeCentral

2022年11月15日(火)～18日(金)

ハノーバー(ドイツ)

<https://www.energy-decentral.com/de/>

■9th International Symposium on Energy from Biomass and Waste

2022年11月21日(月)～23日(水)

ベニス(イタリア)

<http://www.venicesymposium.it/>

■Future of Biogas Europe

2022年11月23日(水)～24日(木)

アムステルダム(オランダ)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/future-biogas-europe/>

■WASTECON 2022

2022年12月5日(月)～8日(木)

カリフォルニア州サンディエゴ(USA)

https://wastecon.org/?utm_source=MediaPartner&utm_medium=listing&utm_campaign=Conferences&utm_content=WC22_BBI22

■Fuels of the Future

2023年1月23日(月)～24日(火)

ベルリン(ドイツ)

<https://www.fuels-of-the-future.com/en>

◎Nordic Pellets Conference 2023

2023年2月1日(水)～2日(木)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets-conference-2023/>

◎6th Biomass Trade & Power Europe

2023年2月7日(火)～8日(水)

コペンハーゲン(デンマーク)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=220302&>

◎2023 International Biomass Conference & Expo

2023年2月28日(火)～3月2日(木)

ジョージア州アトランタ(USA)

<http://biomassmagazine.com/events/browse/>

■EXPOBIOMASA

2023年5月9日(火)～11日(木)

バリャドリッド(スペイン)

<https://www.expobiomasa.com/en/>

5. 2022年度ペレットストーブ、ボイラ補助金情報(都道府県順)

※締切や公募の条件等の詳細は各自治体にお問い合わせください。

◇: ストーブ

◆: ストーブ・ボイラ共

【岩手県】

◇一関市「薪ストーブ設置費補助金」

<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/29,145171,243,787.html>

※対象は薪ストーブ

【山形県】

◇南陽市「木質燃料利用促進事業補助金」

<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/kankyohozen/machi/kankyo/shisaku/20130328.html>

◇米沢市「木質バイオマス燃焼機器(ストーブ)設置事業費補助金」

<https://www.city.yonezawa.yamagata.jp/6701.html>

【栃木県】

◇市貝町「家庭用低炭素化促進設備設置費補助金」

https://www.town.ichikai.tochigi.jp/forms/info/info.aspx?info_id=48936

◇さくら市「令和4年度さくら市再生可能エネルギー利用機器設置費補助金」

[https://www.city.tochigi-](https://www.city.tochigi-sakura.lg.jp/life/000014/000121/000402/p001978.html)

[sakura.lg.jp/life/000014/000121/000402/p001978.html](https://www.city.tochigi-sakura.lg.jp/life/000014/000121/000402/p001978.html)

◇那珂川町「令和4年度那珂川町低炭素まちづくり推進設備等導入事業費補助金」

[https://www.town.tochigi-](https://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp/life/kurashi/teitan2018-0402-1526-23.html)

[nakagawa.lg.jp/life/kurashi/teitan2018-0402-1526-23.html](https://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp/life/kurashi/teitan2018-0402-1526-23.html)

◇益子町「益子町住宅用木質バイオマスストーブ設置費補助金制度」

<https://www.town.mashiko.lg.jp/page/page001518.html>

【神奈川県】

◇清川村「地球温暖化防止対策事業補助金」

<https://www.town.kiyokawa.kanagawa.jp/soshiki/zeimujumin/2266.html>

【山梨県】

◇甲府市「クリーンエネルギー機器普及助成金制度」

<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/kankyohozen/machi/kankyo/shisaku/20130328.html>

【長野県】

◇安曇野市「ペレットストーブ導入促進事業補助」

<https://www.city.azumino.nagano.jp/uploaded/attachment/52594.pdf>

◆飯田市「飯田市環境共生住宅建設補助金」

<https://www.city.iida.lg.jp/site/ecomodel/ecomodelhouse.html>

◇伊那市「伊那市山林資源活用機器設置補助金」

https://www.inacity.jp/sangyo_noringyo/noringyo/ringyo/mokushitsubaioimasu/makistove.html

※対象は薪ストーブ

◇伊那市「森のエネルギー推進事業補助金」

https://www.inacity.jp/sangyo_noringyo/noringyo/ringyo/mokushitsubaioimasu/pelletstove.html

◆大町市「森のエネルギー推進事業補助金」(2次募集)

<https://www.city.omachi.nagano.jp/00010000/doc/00010200/0000004.html>

※7月1日(金)~8月31日(水)まで受付

◆岡谷市「岡谷市森のエネルギー推進事業補助金」

https://www1.g-reiki.net/okaya/reiki_honbun/e705RG00000927.html

◆佐久市「佐久市木質バイオマス熱利用設備導入事業補助金」

https://www.city.saku.nagano.jp/kurashi/kankyo_kogai/ondankataisaku/hojo/pelletstoveetc/h27mokushitsubio.html

◆千曲市「千曲市森のエネルギー推進事業補助金」

<https://www.city.chikuma.lg.jp/soshiki/norin/sangyoshinko/1/1681.html>

◇茅野市「ペレットストーブの補助金」

<https://www.city.chino.lg.jp/soshiki/nourin/mokushitsubiomass.html>

※8月頃に案内予定

◇中川村「中川村森のエネルギー推進事業補助金」

<https://www.vill.nakagawa.nagano.jp/soshiki/shinkou/6632.html>

◇長野県「令和4年度信州健康ゼロエネ住宅助成金」

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kenchiku/kenkozeroene/joseikin.html>

◇白馬村「白馬村森のエネルギー推進事業補助金」

https://www1.g-reiki.net/vill.hakuba/reiki_honbun/e799RG00000550.html

◆松川町「森のエネルギー推進事業補助金」

<https://www.town.matsukawa.lg.jp/soshikikarasagasu/juminzeimuka/kankyokakari/1/3/4811.html>

◇松本市「松本市ペレットストーブ購入事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/74/3181.html>

※7月15日(金)より受付開始

◇山形村「ペレットストーブ等購入事業補助金」

<https://www.vill.yamagata.nagano.jp/docs/48282.html>

【岐阜県】

◇揖斐川町「木質バイオマス活用促進事業補助金」

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/305818.pdf>

◇白川町「家庭用新エネルギー・再生可能エネルギー補助金」

<https://www.town.shirakawa.lg.jp/event/%E5%AE%B6%E5%BA%AD%E7%94%A8%E6%96%B0%E3%82%A8%E3%83%8D%E3%83%AB%E3%82%AE%E3%83%BC%EF%BD%A5%E5%86%8D%E7%94%9F%E5%8F%AF%E8%83%BD%E3%82%A8%E3%83%8D%E3%83%AB%E3%82%AE%E3%83%BC%E8%A3%9C%E5%8A%A9%E9%87%91.html>

【愛知県】

◆設楽町「設楽町木質バイオマスストーブ等購入設置補助制度」

<https://www.town.shitara.lg.jp/index.cfm/15,5142,52,206.html>

6. 公募等情報（締切順）

■環境省「令和4年度地域共創・セクター横断型カーボニュートラル技術開発・実証事業の二次公募について」

公募期間 2022年5月27日（金）～7月7日（木）

http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz_local/04_a01_3/r4co2_2.html

■NEDO「『バイオジェット燃料生産技術開発事業／実証を通じたサプライチェーンモデルの構築』に係る公募について」

公募期間 2022年6月8日（水）～7月7日（木）

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF2_100342.html

■（一社）環境技術普及促進協会「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（2）新たな手法による再エネ導入・価格低減促進事業に係る公募のお知らせ ④⑤再エネ熱利用・自家消費型再エネ発電等の価格低減促進事業」（三次公募）

公募期間 2022年6月22日（水）～7月13日（水）

http://www.eta.or.jp/offering/22_06_shin4/220622.php

■（公財）自然保護助成基金「第33期（2022年度）プロ・ナトゥーラ・ファンド助成」

募集期間 2022年6月1日（水）～7月14日（木）

https://www.pronaturajapan.com/foundation/pronatura_fund.html

■（一財）環境イノベーション情報機構「令和3年度補正予算二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業）」

公募期間 2022年6月13日（月）～7月15日（金）

https://www.eic.or.jp/eic/topics/2022/resi_r03c/005/

■（一財）環境イノベーション情報機構「令和4年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業）」

公募期間 2022年6月13日（月）～7月15日（金）

https://www.eic.or.jp/eic/topics/2022/resi_r04/002/

■（一社）環境共創イニシアチブ「令和3年度補正地域共生型再生可能エネルギー等普及促進事業費補助金公募情報（地域マイクログリッド構築事業）」＜2次公募＞

公募期間 2022年6月8日（水）～7月29日（金）

<https://sii.or.jp/microgrid03r/public.html>

■北海道「省エネルギー設備導入支援事業（第2次公募）」

公募期間 2022年6月13日（月）～7月29日（金）

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kke/107905.html>

■公益信託大成建設自然・歴史環境基金「2022年度助成金」

応募締切 2022年7月29日（金）

https://www.taisei.co.jp/about_us/society/kikin/html/gist.html

■（公財）日本環境協会エコマーク事務局「エコマークアワード2022」

募集期間 2022年6月1日（水）～7月31日（日）

<https://www.ecomark.jp/award/2022/>

■北海道「ゼロカーボン・モビリティ導入支援事業」（追加公募）

公募期間 2022年6月20日（月）～8月10日（水）

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kke/107992.html>

■北海道「ゼロカーボン・イノベーション導入支援事業」（追加公募）

公募期間 2022年6月20日（月）～8月10日（水）

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kke/108001.html>

■（公社）環境生活文化機構「2022年度持続可能な社会づくり活動表彰事業」

応募締切 2022年8月31日（水）

<https://www.elco.or.jp/publics/index/29/>

■関係7府省「令和4年度バイオマス産業都市構想の提案を募集」

募集期間 2022年6月28日（火）～9月9日（金）

https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/bio_g/220628.html

■愛媛県「令和4年度木質バイオマス活用革新的取組支援事業
公募のお知らせ」

公募期間 2022年4月12日(火)～9月30日(金)

<https://www.pref.ehime.jp/h35700/mokuzairyuutsuu/04kakushinteki.html>

■滋賀県「令和4年度省エネ・再エネ等設備導入加速化補助金」

申請締切 10月31日(月)

<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/koho/e-shinbun/bosyuu/325841.html>

■宮城県仙台市「仙台市温室効果ガス削減設備導入支援補助金」

申請期限 2022年12月26日(金)

<https://www.city.sendai.jp/ondanka/jigyosha/actionprogram/hojokin/setsubi.html>

■(公社)日本フィランソロピー協会「SDGs貢献プロジェクト」

応募受付期間 2022年12月1日(木)～31日(土)

<https://www.philanthropy.or.jp/jt/>

■静岡県浜松市「浜松市木質バイオマス設備導入支援事業費補助金」

受付期間 2022年4月15日(金)～2023年1月31日(火)

<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/documents/137778/1301.pdf>

■ラッシュジャパンチャリティバンク事務局「【チャリティバンク】自然環境保護や気候変動に関するプロジェクトの申請を受け付けています」

応募締切日：2月末日、4月末日、6月末日、8月末日、10月末日、12月末日

http://www.geoc.jp/rashinban/event_detail_39167.html

<https://weare.lush.com/jp/lush-life/our-giving/charity-pot/charitybank-guideline/>

■兵庫県宍粟市「2022年度宍粟市再生可能エネルギー利用促進事業木質バイオマス燃料製造設備補助金」

2022年4月1日(金)～2023年3月16日(木)

<https://www.city.shiso.lg.jp/kurashi/gomishinyokankyo/kankyori>

saikuru/1515747829708.html

■東京都「東京都区市町村との連携による地域環境力活性化事業」

事業期間 2014年度～2023年度

http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/policy_others/municipal_support/current.html

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

事業期間 2022年4月1日(金)～

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

事業期間 2022年4月1日(金)～

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■千葉県南房総市「令和4年度南房総市薪等燃料費購入補助金」

事業期間 2022年4月1日(金)～

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■(公財)東京都環境公社東京都地球温暖化防止活動推進センター「地産地消型再エネ増強プロジェクト」

事業期間 2022年4月22日(金)～

<https://www.tokyo-co2down.jp/subsidy/chisan-zokyo>

■農水省大臣官房環境バイオマス政策課「農林漁業バイオ燃料法に基づく事業計画、支援措置(固定資産税の特例等)」

固定資産税の特例の適用期限 ～2024年3月31日まで

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/bio/nenryoho/>

■高知県「高知県木質資源利用促進事業費補助金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030501/2019022200068.html>

■高知県「再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/2015060100117.html>

■高知県香南市「香南市燃料タンク対策事業費補助金」

<http://www.city.kochi->

konan.lg.jp/reiki_int/reiki_honbun/r254RG00001291.html

■高知県仁淀川町「仁淀川町再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

http://www.town.niyodogawa.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r191RG00

<000129.html#e000000030>

■北海道「林業・木材産業改善資金」

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/kaizennshikinn.pdf>

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■愛媛県「環境保全資金融資（令和4年度）」

<https://www.pref.ehime.jp/kankyoku/k->

<hp/theme/other/yuusiseido.html>

■栃木県「栃木県環境保全資金（省エネ設備等の導入）」

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/eco/kankyoku/ondanka/syoue>

<ne-setubi-yuusi.html>

※融資制度

■徳島県「自然エネルギー立県とくしま推進資金貸付制度」

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kurashi/shizen>

</5007685/>

※融資制度

■奈良県「新エネルギー等対策資金」

<http://www.pref.nara.jp/23346.htm>

※融資制度

■（公財）日本環境協会「令和2年度環境配慮型融資促進利子補給事業」

https://www.jeas.or.jp/activ/prom_24_00.html

※融資制度

■横浜市「よこはまプラス資金（環境・エネルギー対策）」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo->

<koen-gesui/plus/hozenshikin.html>

※融資制度

■千葉県「環境保全資金（制度全般事業認定）」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/chikyukankyou/ne/shien->

<jigyousha.html>

■千葉県市原市「市原市企業立地促進条例」

<http://www.city.ichihara.chiba.jp/kanko/0205sangyou/kigyouritt>

<igaido.html>

■（独）農林漁業信用基金「災害で被災された方の支援について（新型コロナウイルス感染症による影響を含む）」

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/shien/index.html>

■NEDO「『木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業』に係る第3回公募について」【予告】

公募期間 2022年7月上旬から約1カ月間公募予定

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100354.html

■NEDO「2022年度『新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業』に係る第2回公募について」【予告】

公募期間 2022年7月上旬～8月下旬

https://www.nedo.go.jp/koubo/CA1_100370.html